

第4章 施策の展開

第4章には、基本施策ごとの市の具体的な取組と、市民と事業者が環境のために取り組むべき行動を記載しています。

1. 地球環境
2. 自然環境
3. 生活環境
4. 循環型社会
5. 保全活動

第1節 地球環境

ー省エネと自然エネルギーを有効活用するまちー

1. 二酸化炭素排出削減の推進

①施策の推進方向

- 地球温暖化に関する情報の提供により各主体が積極的かつ自主的に地球温暖化を防止するための取組を推進します。
- 市が率先して本庁舎をはじめ市の施設の電気などのエネルギー使用量の削減・省エネ活動や省エネ機器・設備の導入、建物の省エネ化に努めます。
- 日常生活における環境への負荷を低減するため、省エネ行動や住宅の省エネ化の普及を図り、二酸化炭素排出の少ないライフスタイルを促進します。
- 環境にやさしい次世代自動車など、ガソリン自動車よりも環境負荷が少ない乗り物への利用転換を促進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
エネルギー使用量の削減	本庁舎をはじめ市の施設の電気などのエネルギー使用量の削減に努めます。	財産管理課等
防犯灯のLED化	自治会で維持・管理している防犯灯のLED化を促進し、地域全体で省エネルギーの推進を図ります。	基地・防災対策課
地球温暖化防止啓発活動の推進	地球温暖化に関する情報の提供と市民への啓発周知に努めます。	市民環境課
エコ製品の購入などの普及促進	エコ製品など環境にやさしい製品の情報提供による普及促進を図ります。	市民環境課
次世代自動車の導入	公用車の次世代自動車の導入に努めます。	財産管理課等
次世代自動車購入の促進	次世代自動車などの購入を促進します。	市民環境課
公共交通機関の利用促進	JRや路線バスなどの公共交通機関の利用促進をします。	企画課

次世代自動車：ハイブリッド自動車、EV、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車、クリーンディーゼル車、CNG自動車等。

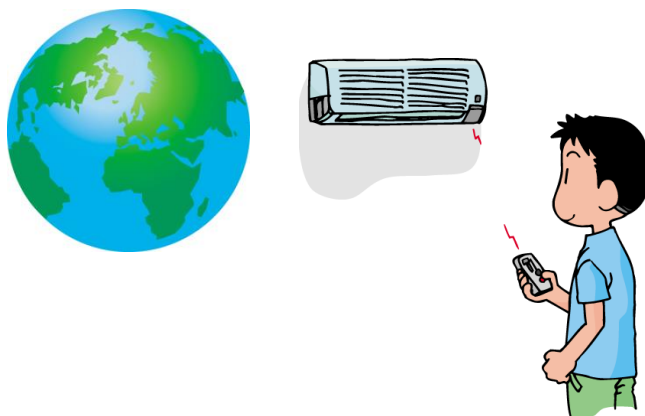
③各主体の取組

《市民の取組》

- 冷暖房は、熱中症予防に配慮して、適切な温度管理に努めましょう。
- 家庭における省エネ状況を把握するため、環境家計簿の導入に努めましょう。
- 照明やテレビなど家電製品は、こまめに電源を切るなど待機電力の削減に努めましょう。
- エコ製品やリサイクル製品など環境にやさしい製品の購入に努めましょう。
- 節水を心がけるようにしましょう。
- 外出の時には、公共交通機関を利用するなどして自家用車の使用抑制に努めましょう。
- 自動車を購入する際は、環境にやさしい次世代自動車の購入に努めましょう。
- 自動車を運転する際は、アイドリングストップなど燃料効率に配慮したエコドライブに努めましょう。

《事業者の取組》

- クールビズやウォームビズの実践に努めるとともに、事務所や事業所などで使用する冷暖房は、必要なときだけ使用し、適切な温度管理に努めましょう。
- 事業活動で使用する機器は、効率よく使い、省エネ、省資源に取り組みましょう。
- 事業所敷地内の緑化に努めましょう。
- エコ製品やリサイクル製品など、環境にやさしいグリーン購入に努めるとともに、修理、詰め替えなどにより使える間は使えるようにしましょう。
- 設備の設置や更新の際には、エネルギー効率の高い設備の導入に努めましょう。
- 環境にやさしい事業活動を推進するため、ISO14001・エコアクション 21 などの環境マネジメントシステムの積極的導入に努めましょう。
- 節水を心がけるようにしましょう。
- 事業活動で使用する自動車を購入する際は、環境負荷をなくすため次世代自動車の購入に努めましょう。



ISO14001：環境マネジメントシステムの手法のひとつ。

環境マネジメントシステム：組織や事業者が、運営や経営の中で環境に関する方針や目標を自ら設定し、取り組むこと。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成 28 年)	中 間 目 標 値 (令和 4 年)	目 標 値 (令和 9 年)	担当課
市有施設におけるエネルギー使用の削減	G J	68,908	減少	減少	市民環境課
公共交通を利用しやすいと思う市民の割合	%	12.5 (平成 28 年 10 月市民意識調査)	25	25	企画課
鉄道・路線バスの利用者数	人	150,880	28,815	/	企画課

※鉄道・路線バスの統計が公表されなくなりました。



市役所本庁舎



J R えびの駅

2. エネルギーの有効利用の促進

①施策の推進方向

- 脱炭素社会への転換のため省エネ・省資源の取組を推進するとともに、太陽光・地熱、風力発電や小水力発電など再生可能エネルギーの利用を促進します。また、本市の特性を活かした再生可能エネルギーは、再生可能エネルギービジョンの基本方針に基づき、特に導入を促進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
再生可能エネルギー利用の啓発	一般家庭における太陽光・太陽熱など環境にやさしい自然エネルギーの利用を促進します。	市民環境課
再生可能エネルギー導入の促進	再生可能エネルギー等の導入に基づき、地域の特性を活かした（太陽光・地熱・小水力・風力等）の導入を促進します。	市民環境課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 住宅の新築や改築の際には、太陽光や太陽熱など環境にやさしいエネルギーの導入に努めましょう。

《事業者の取組》

- 事務所や工場の新築や改築の際には、太陽光や太陽熱など環境にやさしいエネルギーの導入に努めましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年)	目標値 (令和9年)	担当課
再生可能エネルギーの 設置件数	件	0	増加	増加	市民環境課

3. 二酸化炭素吸収源対策の推進

①施策の推進方向

- 豊富な森林資源を二酸化炭素の吸収源対策として活用するため、森林の適正な管理を図るとともに、企業や各種団体が行う森づくりを推進します。また、林業体験学習の推進や緑の募金などに対する周知徹底を図ることにより、**二酸化炭素の吸収に役立つ**森林保全の重要性の理解促進に努めます。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
再造林や適切な育林の推進	植栽や間伐が遅れている未整備森林の再造林や適切な育林を推進します。	農林整備課
企業・団体が行う森づくりの促進	企業・団体と協力して森林環境に関する活動を行い、森林が二酸化炭素を吸収し地球温暖化を防ぐための森づくりを促進します。	農林整備課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 森林環境保全に関する活動に積極的に参加しましょう。

《事業者の取組》

- 森林の公益的機能の維持増進のために適切な林地保全に努めましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中 間 目 標 値 (令和4年度)	目標値 (令和9年)	担当課
森林ボランティア活動人数	人	131	150	250	農林整備課
植栽の推進	ha	8	16	16	農林整備課

第2節 自然環境

—自然の宝庫を継承するまち—

1. 多様な生物を育む自然環境の保全

①施策の推進方向

- 身近な環境が自然の宝庫であることを再認識され、その自然環境を次世代に贈るための環境保全の活動を推進します。
- 河川・水路の工事を行う場合には、多様な生物が生息・生育する良好な水辺の保全を考慮して整備します。
- みどりの少年団の育成や林業体験などを促進することにより、森林保全の重要性についての周知啓発を推進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
自然環境保全活動の促進	絶滅危惧種を含む多様な希少動植物の生息・生育していることの認識を高め、保全する活動を促進します。	市民環境課
河川環境に配慮した工事	河川工事など水生動植物が増殖しやすい工法による工事発注などを行います。	建設課
生態系に配慮した施設整備の推進	水路などの施設の整備においては、生態系に配慮して推進を図ります。	農林整備課
河川汚濁対策の強化	河川工事などによる河川汚濁の対策強化を図るため、請負業者などへの啓発を行います。	建設課
みどりの少年団の育成	森林機能の重要性についての理解を促進するため、小中学校を対象にしたみどりの少年団の育成を推進します。	農林整備課



みどりの少年団 植樹活動

③各主体の取組

《市民の取組》

- 身近に自然の宝庫があることを再認識し、環境保全の活動に協力しましょう。
- 地域や各種団体が行う自然観察会や自然体験活動に積極的に参加し、環境保全に対する意識向上に努めましょう。
- 農林業体験をとおして、地域の豊かな自然について理解を深めましょう。

《事業者の取組》

- 開発工事の際には、希少動植物の生息・生育環境に配慮しましょう。
- 自然の宝庫であることを再確認し、環境保全の活動に協力しましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中 間 目 標 値 (令和4年度)	目 標 値 (令和9年)	担当課
自然の豊かさの満足度（アンケート調査結果）	%	87.6	90.0	90.0	市民環境課



えびの高原のノカイドウ



川内川の流れ

2. 生態系に配慮した農林業の推進

①施策の推進方向

- 多様な生態系を育む農地やその周辺の環境、さらには、農村地域の優良な里地を保全するため、減農薬・有機農業等を促進し、環境にやさしい環境保全型農業を推進します。
- 各種制度を活用した間伐などの森林整備による適切な育林や植栽未済地の解消、針広混交林などへの誘導を図ることにより、動植物の生息・生育環境が維持できる多様な森林づくりを推進します。
- 西諸地区産材の利用促進などにより、健全な森林を育む林業を推進するとともに、山村地域の里山の保全を図ります。
- 水源かん養機能を有する森林の保全を促進することにより、健全な水循環の確保を図ります。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
環境にやさしい農業の推進	農地やその周辺の生態系を保全するため、減農薬・有機農業など環境にやさしい農業の普及促進を図ります。	畜産農政課
環境に配慮した基盤整備の推進	生産条件の向上と担い手の育成を行いながら環境に配慮した畑・田基盤整備を推進します。	農林整備課
林業担い手の育成	自然環境の維持・保全を図るための担い手育成に努めます。	農林整備課
森林整備の推進	森林の持つ公益的機能を発揮するため健全な森林整備を推進し、環境に配慮した路網開設に努めます。	農林整備課
景観に配慮した森林経営の推進	人と自然が共生できる里山の森林保全を推進し、景観保全に努めます。	農林整備課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 家庭において除草剤などを使用する際は、土壌環境に配慮しましょう。
- 再生可能な燃料として木材利用に努め、森林づくりにも協力しましょう。

《事業者の取組》

- 減農薬・有機農業など環境にやさしい農業の実施により、土壌環境への負荷の低減に努めましょう。
- 除草剤などを使用する際は、土壌環境に配慮しましょう。
- 水源かん養機能の向上のために計画的な森林整備に努めましょう。
- 林業後継者などの担い手育成・確保に努めましょう。
- 情報共有を図り連携した林業施策に取り組みましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中 間 目 標 値 (令和4年度)	目標値 (令和9年)	担当課
間伐実施面積	ha	144	100	100	農林整備課
林道など路網の開設延長	m	4,192	2,000	2,000	農林整備課
新規林業就業者数	人	1	10	10	農林整備課



3. 野生動植物の保護と管理

①施策の推進方向

- 身近に絶滅危惧種を含む希少動植物が生息・生育している自然の宝庫であることの再認識のもと、環境に配慮し、希少動植物の適正な保護を推進します。希少動植物が生息・生育する重要な地域について、特に関係団体などと連携して適切な情報収集や定期的な監視を行うことにより希少動植物の保護を推進します。
- 良好な森林を維持し、希少植物を保護するため、シカやイノシシなどの有害鳥獣による森林被害を防止し、国・県や関係機関と連携した対策を推進します。
- 生態系に影響を与えるおそれがある外来種に関する情報提供を図るなど、適切な外来種対策を推進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
希少植物の保護の推進	情報提供により希少植物など多く自生している自然の宝庫であることの市民の認識を高め、希少動植物の保護や生息・生育環境の保全に対する意識啓発を図ります。	市民環境課
動植物の保護ネットワークの形成	環霧島会議の関係自治体などとの情報交換を含めた自然保護の体制を確立します。	市民環境課
野生鳥獣の適正管理	シカやイノシシなどの有害鳥獣による森林被害を防止し、良好な森林を維持するため、国・県や関係機関と連携した対策を推進します。	農林整備課
外来種に関する周知啓発	特定外来生物や要注意外来生物による生態系への影響を防止するため、広報などを通じて外来種に関する情報について周知啓発を図ります。	市民環境課



鍋倉湿原の希少植物の現地研修会（平成 29 年 3 月）

③各主体の取組

《市民の取組》

- 身近に絶滅危惧種を含む希少動植物が生息・生育している自然の宝庫であることを再認識し、希少動植物の生息・生育環境を守りましょう。
- シカやイノシシなどからの被害を少なくするため、「①餌になるものを放置しない、②山林を整備して見晴らしを良くする、③防護柵を設置する、④追い払いや駆除をする。」自己対策を行いましょう。
- 生態系に影響を与える特定外来種について、適切な情報提供及び防除に努めましょ
う。

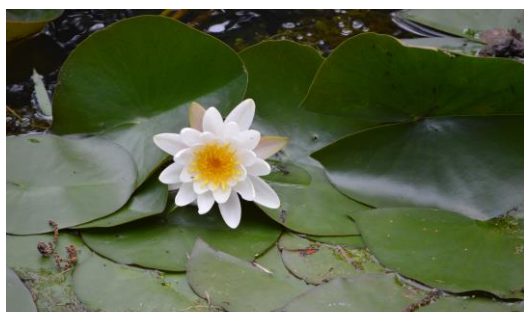
《事業者の取組》

- 身近に絶滅危惧種を含む希少動植物が生息・生育している自然の宝庫であることを再認識し、希少動植物の生息・生育環境を守りましょう。
- シカやイノシシなどからの被害を少なくするため、「①餌になるものを放置しない、②山林を整備して見晴らしを良くする、③防護柵を設置する、④追い払いや駆除をする。」自己対策を行いましょう。
- 生態系に影響を与える特定外来種について、適切な情報提供及び防除に努めましょ
う。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中 間 目 標 値 (令和4年度)	目標値 (令和9年)	担当課
希少植物（絶滅危 惧種）の現地調査 確認	種	11	増加	増加	市民環境課

鍋倉湿原に自生している希少植物（平成29年確認）



ヒツジグサ（絶滅危惧ⅠA）



ノハナショウブ（絶滅危惧ⅠB）

第3節 生活環境

ー水と空気が美味しい安心して暮らせるまちー

1. 快適空間の保全と創出

①施策の推進方向

- 身近に利用する道路を快適な通行環境にするため、行政及び市民ボランティアによる道路美化運動を推進します。
- スポーツや運動・健康づくりの場あるいは市民の身近な憩いや交流の場としての公園の整備・維持管理を推進します。市民などによる美化活動も進め、快適な公園の維持に努めます。
- 良好な景観を保全・創出するために地域の美化推進活動を支援します。
- 快適な空間を確保する上で、周りに迷惑にならないよう、犬や猫を適正に飼育するように関係機関と連携して啓発していきます。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
道路美化運動の推進	道路利用者に快適な通行環境を提供するため、市及び市民ボランティアによる道路美化運動を推進します。	建設課
公園の整備	誰もが安全・安心に利用できるよう計画的に改修等を行い、市民の憩いの場の充実に努めます。	社会教育課 観光商工課
公園の維持管理	公園が快適な空間であるために、市民などの美化活動も進めながら適切な維持管理に努めます。	社会教育課 観光商工課
環境配慮に対する意識啓発	環境配慮・景観配慮に対する意識を啓発します。	市民環境課 観光商工課
立地企業の環境保全に対する取組	企業誘致による立地企業の環境保全に対する取組を推進します。	観光商工課
市民協働の美化推進	市民協働による地域の美化推進活動を支援します。	市民協働課
犬・猫の適正な飼育の普及啓発	定期的に広報誌などにより適正な飼育の普及啓発をします。	市民環境課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 道路利用者として自治会やボランティア団体などによる道路などの美化活動に積極的に参加しましょう。
- 公園を利用する際は、ごみは持ち帰るなど環境美化に努めましょう。
- 犬や猫を飼う場合は、近隣に迷惑にならないよう適正に飼育しましょう。
- 犬を散歩させる場合は、フンの後始末をしましょう。
- 所有している土地や建物は、周囲に迷惑にならないよう適正な維持管理に努めましょう。

《事業者の取組》

- 道路利用者として自治会やボランティア団体などによる道路などの美化活動に積極的に参加しましょう。
- 工場や事業所の建設などの際には、周辺の環境と調和した景観づくりに努めましょう。
- 所有している土地や建物は、周囲に迷惑にならないよう適正な維持管理に努めましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目 標 値 (令和9年)	担当課
道路を利用しやすいと思う市民の割合	%	47.6 (平成28年10月 市民意識調査)	60.0	60.0	建設課

2. 歴史・文化的資源の確保と伝承

①施策の推進方向

- 優れた歴史・文化的財産の保存を図るため、埋蔵文化財の発掘調査や指定文化財の保護管理を推進します。
- 市民生活に潤いを与える郷土の歴史や文化に対する理解と関心を促進するため、歴史的・文化的イベントを開催するなど、伝統文化に対する保存伝承を推進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
文化財の保存	市内出土遺物の保存や指定文化財の保護に努めます。	社会教育課
文化財の展示機能の充実・整備	市歴史民俗資料館における文化財の展示機能の充実・整備を図ります。	社会教育課
文化財の調査の推進	関係機関と連携して文化財の保護や埋蔵文化財の発掘調査を推進します。	社会教育課
文化財の保護啓発	県及び市指定文化財などの保護のための適正な管理・整備を啓発します。	社会教育課
郷土芸能の保存伝承の促進	郷土芸能団体の継承に努めるとともに、郷土芸能発表会を継続的に実施し、保存伝承の促進を図ります。	社会教育課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 地域の歴史や文化に関心を持ち、歴史的・文化的資源の保存に協力し、継承に努めましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目標値 (令和9年)	担当課
歴史民俗資料館入館者数	人	8,853	9,000	9,000	社会教育課
生涯学習を行っている市民の割合	%	26.2 (平成28年10月 市民意識調査)	40.0	40.0	社会教育課

3. 大気環境の保全

①施策の推進方向

- 光化学オキシダントなどについては、県と連携して情報収集を行うとともに、市民への迅速な情報提供に努め、健康被害を防止します。
- ごみは野外焼却せず、適正に処理をするよう周知啓発します。
- 地球規模で進行するオゾン層破壊や地球温暖化の問題に対応するため、「フロン排出抑制法」、「家電リサイクル法」及び「自動車リサイクル法」に基づくフロン類の適正処理についての普及啓発を推進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
光化学オキシダントなどに関する監視と情報提供	県などが測定する大気汚染物質の常時監視状況を確認し、注意報発令時に市民に周知し、健康被害の防止を図ります。	市民環境課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 家庭ごみは適正に処理を行い、野外でのごみの焼却はやめましょう。
- フロン回収は、専門業者に依頼し適正に処理しましょう。

《事業者の取組》

- 事業所から出たごみは適正に処理を行い、野外でのごみの焼却はやめましょう。
- 近隣の迷惑となるような悪臭を発生させないように配慮しましょう。
- フロン回収は、専門業者に依頼し、適正に処理しましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現況値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)	担当課
公害苦情件数 (大気汚染)	件	2	減少	減少	市民環境課

4. 水環境の保全

①施策の推進方向

- 良好な水質を保全するため、河川の水質検査と監視を行います。また、生活排水対策総合基本計画に基づいた生活排水処理施設（浄化槽）の整備を進めるとともに、浄化槽の適正な維持管理を関係機関と連携して推進します。
- 関係機関と連携して河川浄化に関する周知啓発に努めるとともに、水路の維持管理活動を推進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
合併浄化槽の普及推進	設置費助成により単独浄化槽から合併浄化槽への計画的転換を推進します。	市民環境課
浄化槽の適正な維持管理の推進	浄化槽設置者が浄化槽を適正に維持管理するよう啓発推進します。	市民環境課
生活排水の適正処理の促進	汚濁負荷の大きい家庭用の食用油などの排出について適正処理や情報提供を行います。	市民環境課
水路の維持管理の推進	水路を改修し、利用者による清掃などの維持管理活動を推進します。	建設課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 単独浄化槽から合併浄化槽（し尿だけでなく、全ての生活雑排水を浄化）に転換しましょう。
- 浄化槽の設置者は、年に1回の法定検査や専門業者による保守点検や清掃を行い、適正な維持管理に努めましょう。
- 調理くずや食べ残したもの、廃食用油は、台所の排水口に捨てずに適正に処理を行いましょう。
- 水路の清掃などの維持管理活動に積極的に参加しましょう。
- 井戸水などを使用している場合は、定期的に水質検査を行い、実態を把握しましょう。
- 減農薬・減化学肥料栽培など環境にやさしい農業の実施により、地下水への負荷の低減に努めましょう。

《事業者の取組》

- 単独浄化槽から合併浄化槽に転換しましょう。
- 浄化槽の設置者は、年に1回の法的検査や専門業者による保守点検や清掃を行い、適正な維持管理に努めましょう。
- 調理くずや食べ残したものは、台所の排水口に流さないようにしましょう。
- 井戸水などを使用している場合は、定期的に水質検査を行い、実態を把握しましょう。
- 車両事故などによる油類の流出については、事業者自ら原因者責任として被害拡大防止に努め、関係機関に連絡をすることにより、早期の解決を図りましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)	担当課
河川BOD環境基準達成率	%	100	100	100	市民環境課
生活排水処理率	%	62.5	75.0	75.0	市民環境課
合併浄化槽補助年間設置基数	基	86	130	130	市民環境課
浄化槽の法定検査受検率	%	55.5	100	100	市民環境課

(参考) 浄化槽のしくみ

どのようにして污水がきれいになるのでしょうか

浄化槽は水中の微生物の働きを利用して污水を浄化するものです。つまり、微生物が污水の中の汚物を食べ、きれいな水にしてくれるのです。この微生物には、大きく分けて、空気があるところで活動する好気性のものと、空気がないところで活動する嫌気性のものがあります。浄化槽のしくみとしては、それらの微生物が力一杯働き、きれいな水が出せるよう、それぞれが働きやすい条件を整えてやることが大切です。



●好気性微生物



●嫌気性微生物

わたしたちは、山川草木のあらゆる自然環境から多くの恵みを受けています。水も大切な恵みの一つであり、その環境を保全する必要があります。



轟の滝



甕岳の火口湖



加久藤の水田



クルソン溪谷



田に佇む白鷺



収穫を迎えるえびの米

5. 周辺環境に配慮した農林業の推進

①施策の推進方向

- 農業のもつ自然循環機能の維持増進を図り、持続的な生産活動を推進するとともに、耕畜連携による循環型農業の推進を図ります。
- 田畑に散布するたい肥などによる悪臭を防止するための啓発活動を推進します。
- 農村地域の優良な里地を保全するため、耕作放棄地などの解消を推進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
家畜排せつ物の適正処理の推進	畜産施設からの排せつ物については、「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、県や関係機関と連携して適正処理を推進します。	畜産農政課
里地の保全	中山間地域等直接支払制度などの活用により、中山間地域の農地保全を推進します。	畜産農政課
家畜排せつ物の有効利用の推進	良質な堆肥化を推進するとともに、耕種部門における利用拡大を図るなど、耕畜連携による良質な土づくりを推進します。	畜産農政課
家畜排せつ物(たい肥)の悪臭防止の啓発	田畑に散布するたい肥などによる悪臭を防止するように広報誌などにより周知啓発をします。	畜産農政課
耕作放棄地などの解消・活用	下限面積の要件緩和により、引き続き耕作放棄地などの解消を推進していきます。また、飼料自給率の向上を図るためにも耕作放棄地・休耕地の活用を推進していきます。	農業委員会 畜産農政課

④成果指標

成果指標	単位	現況値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目標値 (令和9年)	担当課
産業活動に伴う公害防止対策の満足度 (アンケート調査結果)	%	63.9	70.0	70.0	市民環境課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 家庭菜園などにおいて地元で生産されたたい肥を活用し、減農薬や減化学肥料に努めましょう。
- 家庭において除草剤などを使用する際は、土壌環境に配慮しましょう。

《事業者の取組》

- 農薬や化学肥料を使用する事業者は、適正な使用に努めましょう。
- 田畑にたい肥を散布した際は、悪臭がしないように直ちに耕運しましょう。
- 家畜排せつ物は、「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、適正に処理を行いましょう。
- 良質な堆肥化を推進するとともに、耕種部門における利用拡大を図るなど、耕畜連携による良質な土づくりに努めましょう。
- 自給飼料を確保するため、休耕地・耕作放棄地・転作田及び裏作の活用により粗飼料を生産し、飼料自給率の向上に努めましょう。
- コントラクター組織などを活用し、農作業の効率化を図りましょう。



内壱 田の神さあ

第4節 循環型社会

—ごみ問題がない循環型社会をめざすまち—

1. 廃棄物の適正処理の推進

①施策の推進方向

- 不法投棄を防止するため、看板の設置や広報誌による啓発やパトロールによる監視強化などの対策を推進します。
- ごみ出しルールの徹底及び指導を行うことにより各地域のごみステーションの適正な維持管理を支援します。
- 美化センターをはじめとする廃棄物処理施設の安全で安定的な運転管理に努め、周辺環境への配慮を十分行いながら、適正な廃棄物処理に取り組みます。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
不法投棄防止対策	不法投棄防止のため、啓発用看板による注意喚起・パトロールによる監視強化を行い、あわせて広報誌などで啓発を図ります。	市民環境課
ごみの分別の徹底	ごみ排出者に対し、ごみ分別の指導や出前講座を通じ、ごみ出しルールの徹底を図ります。	市民環境課
廃棄物処理施設の適正な維持管理	廃棄物処理施設（美化センター・環境センター・最終処分場）の長寿命化のためにも適正な維持管理に努めます。	市民環境課



不法投棄防止の啓発

③各主体の取組

《市民の取組》

- ごみ・資源物は、「ごみの出し方辞典」に沿って、正しく分別して出しましょう。
- 家庭ごみは、決められたルールに従い、適正に処分しましょう。（ごみの野外焼却や不法投棄は禁止されています）
- 適正なごみ分別・廃棄物の処理を知るために、自治会などが行う出前講座を積極的に受講しましょう。
- 決められたルールで適正に排出することで、廃棄物処理施設の長寿命化に協力しましょう。
- ごみなどを運搬する時は、道路などに飛散しないよう飛散防止用シートを使用しましょう。

《事業者の取組》

- 事業所で発生したごみは、決められたルールに従い、適正に処分しましょう。（ごみの野外焼却及び不法投棄は禁止されています。）
- 農業用の廃プラスチックなどの産業廃棄物は、法律に基づき、適正に処分しましょう。
- 適正なごみ分別を知るために出前講座を利用しましょう。
- 決められたルールで適正に排出することで、廃棄物処理施設の長寿命化に協力しましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)	担当課
ごみ不法投棄件数	件	120	95	95	市民環境課

2. 排出抑制・再使用などの推進

①施策の推進方向

- 循環型社会の形成を図るため、ごみの排出抑制を目的としたごみ処理有料化を引き続き実施します。また、市自ら率先してごみの排出抑制に努めるとともに、各種団体や周辺自治体と連携協力した取組を進めることにより、廃棄物の処理に伴う環境への負荷の低減及び廃棄物処理施設の持続可能な利用に努めます。
- リサイクルを推進するため、リサイクル制度の適正な運用などにより、資源の有効利用を図ります。また、廃棄物の処理工程で発生した金属などの資源化を推進します。
- 各主体のごみ減量化に対する意識啓発を図るため、イベントや出前講座による啓発・環境学習を通じた意識の向上、廃棄物の発生量などに関する情報の提供などを推進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
循環型社会形成の促進	周辺自治体と連携してごみの排出抑制やごみ減量化・再使用・資源化を進める循環型社会形成を促進します。	市民環境課
資源物のリサイクル推進	講習会や出前講座などを通じて、地域などにおける環境保全活動の推進に努めます。	市民環境課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 4R活動（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）を実践しましょう。
- 商品は、ごみにならないよう必要なものを必要な量だけ購入するようにしましょう。
- 家庭のごみ減量化を図るため、適正な分別に取り組みましょう。
- 買い物をするときは、マイバッグの持参、簡易包装の購入に努め、レジ袋削減に協力しましょう。

《事業者の取組》

- 4R活動（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）を実践しましょう。
- 過剰包装などは避け、環境に配慮した簡易包装の実践に努めましょう。
- ごみが大量に排出される場合は、減量化計画を作成し、実践しましょう。
- 小売店などでは、店頭で販売して出たごみは、自主的に回収に努めましょう。
- 商品の簡易包装に努めるとともに、レジ袋削減に協力しましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目 標 値 (令和9年度)	担当課
ごみの総排出量	t	6,230	6,064	5,624	市民環境課
ごみのリサイクル率の 推進	%	12.5	13.0	13.0	市民環境課
ごみ分別できると思う 市民の割合	%	78.4 (平成28年10 月市民意識調査)	80.0	80.0	市民環境課



空き缶のリサイクル

第5節 保全活動

ー共に学び、市民・事業者・市が一体となって環境保全活動に取り組むまちー

1. 環境学習の推進

①施策の推進方向

- 環境学習への取組を促進するため、生涯学習講座や青少年講座における環境に関するメニューの充実あるいは各学校における「えびの学」などでの環境教育や自然体験活動を推進します。また、地域や学校への出前講座の実施も推進します。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
生涯学習講座における環境学習の推進	生涯学習講座メニューの充実を図り、環境学習を推進します。	社会教育課
学校における環境教育の推進	各学校で、「えびの学」を通して自然環境についての知識・技能を身に付ける学習を行うように推進します。	学校教育課
青少年講座などにおける環境学習の推進	青少年講座などのメニューに環境学習を取り入れていきます。	社会教育課
学校における体験活動などを通した環境教育の推進	校外学習や総合的な学習の時間などを活用して、自然体験活動や清掃活動などを行うことができるよう推進します。	学校教育課
環境学習に関する出前講座の実施	地域や学校における環境学習に関する出前講座の実施を推進します。	市民環境課



市内小学校による川内川水系の水辺環境調査

③各主体の取組

《市民の取組》

- 環境に関する生涯学習講座や自然体験活動などに積極的に参加し、そこで得た情報を地域で行われる環境保全活動に活用しましょう。
- 市や地域が主催する出前講座などの機会を活用して、環境学習に取り組みましょう。
- 子ども会活動や地域での世代間交流事業などに環境学習を積極的に取り入れましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目標値 (令和9年)	担当課
市民の学習機会の 満足度 (アンケート調査結果)	%	75.9	80.0	80.0	市民環境課



中学生による郷土の森の歩道整備

2. 環境保全活動の推進

①施策の推進方向

- 市民・事業者が自主的に行う環境保全活動を推進します。
- 環境保全活動を推進するため、市民・事業者の活動事例の紹介やイベントなどの情報提供により活動の活性化を図ります。

②具体的な取組

具体的な取組	取組の内容	担当課
環境保全活動の推進	市民・事業者が自主的に行う環境保全活動を推進します。	市民環境課
市民・市民団体による環境保全活動の促進	市民や市民団体による環境保全活動の取組内容を広く広報誌などで紹介することにより市民の理解と関心を深め、活動の活性化を図ります。	市民協働課

③各主体の取組

《市民の取組》

- 地域で行われる環境美化活動に積極的に参加しましょう。
- 環境保全に関しての正しい知識の修得や保全意識の向上に努めましょう。

《事業者の取組》

- 地域で行われる環境美化活動に積極的に参加しましょう。
- 環境保全に関しての正しい知識の修得と保全意識の向上に努めましょう。

④成果指標

成果指標	単位	現 況 値 (平成28年度)	中間目標値 (令和4年度)	目標値 (令和9年)	担当課
市関連の環境施策の展開事業実績	件	26	30	30	市民環境課